INTERVIEW

今中期の経営方針と、NGNなど新たな技術・社会トレンドを踏まえ４つの重点施策を展開

「量(売上)から質(仕事のやりかた・価値創造ビジネス）への転換」という今中期の経営方針と、NGNなど新たな技術や社会のトレンドを踏まえ、4つの重点化R&D施策を展開するNTTデータ・技術開発本部の取組みについて、山田伸一常務執行役員・技術開発本部長にうかがった。

㈱NTTデータ
常務執行役員
技術開発本部長
山田　伸一氏

技術の提供のみならず、自らも事業化に注力

山田本部長は、基盤システム事業本部の本部長も兼務されていますが、技術開発本部と基盤システム事業本部とでは、どのような違いがあるのでしょうか。

山田　基盤システム事業本部は、世の中の製品の利用技術に取り組んでいるのに対し、技術開発本部はNTTデータの独自技術を磨く組織というのが大きな違いです。技術開発本部が創出した自前の技術を、基盤システム本部やNTTデータ先端技術を経由して社内あるいは社外に提供していく。場合によっては、技術開発本部自らが事業化まで走りきることもあります。従来のように、技術を提供するだけでなく、自らそれを使ってビジネスをすることも視野に入れています。そのため、技術開発本部内で、そういうことができる人間の育成にも取り組んでいます。

ビジネスを意識することは非常に重要なことと思いますが、すでに独自に事業化されている技術というのがあるのでしょうか。

山田　最近の例としては、私どもでNTT情報流通プラットフォーム研究所が開発した技術「STRAGEX」を核に、ネットブート型シンクライアント「CoreBoot」を開発しました。これは、ディスクレスPCを利用することで情報漏洩防止、端末運用管理の効率化などを実現する一方、ハイエンド3D-CADに対応するなど、高いユーザビリティを持っていることが特徴です。現在、NTTデータエンジニアリングシステムズと共同で、「CoreBoot」を利用した製造業向けの情報漏洩対策ソリューションの展開を図っています。

システム開発の基盤系の部隊を技術開発本部に移されましたが、その狙いをお聞かせください。

山田　「TERASOLUNA」や「MOYA」の部隊は、NTTデータ独自のメソドロジーを作る部隊であることから、自前の技術を磨く技術開発本部内に置くことが自然であるということと、技術開発本部内の「ソフトウェア工学推進センタ」に、基盤システム事業本部内のメソドロジー部隊を統合することで分割損もなくなります。技術開発本部がメソドロジーやプロセス系の開発を行い、基盤システム事業本部がプラットフォームの標準化やオフショア先の整備を行うというということで、「SI競争力強化」の施策を役割分担します。

今中期は、４つの重点化R&D施策を展開

R&D施策として、現在どのような点に注力されていますか。

山田　NTTデータは、今中期の経営方針として、「量（売上）から質（仕事のやりかた・価値創造ビジネス）への転換」を掲げ、事業を展開しています。この中期経営方針と、NGNやSaaS、Web2.0など新たな技術・社会のトレンドを踏まえ、今中期の重点化R&Dテーマとして４つを掲げ、取り組んでいます（図１参照）。第一は「お客様のIT投資の変革を促す技術」であり、２つ目が「ソフトウェアの開発スタイルを変革する技術」です。３つ目の重点テーマは、「インフラ／サ

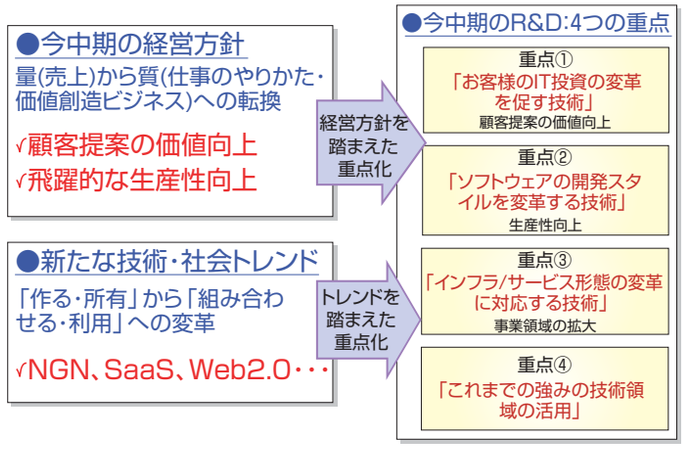

図1　今中期の重点化R&Dテーマ

ービス形態の変革に対応する技術」です。2008年3月にはNGNの商用サービスが開始される予定ですが、私どももNTTグループ会社として、NGNの活用促進に向け、積極的に取り組んでいきたいと考えています。そして4つ目の重点テーマは、「これまでの強みの技術領域の活用」です。

開発プロセス変革に向け推進体制を大幅に強化

4つの重点R&D施策の中で、最も注力されているのは…。

山田　生産性向上に向けた「ソフトウェアの開発スタイルを変革する技術」であり、2007年10月1日にソフトウェア工学に関する研究開発組織を再編成し、技術開発本部内の「ソフトウェア工学推進センタ」を40名体制から100名を超える体制に強化しました。このソフトウェア工学推進センタは、ソフトウェア開発の抜本的生産性向上を目的に、①全社統一の統合開発メソドロジーの策定、②統合プロジェクトマネジメント環境の整備、③フレームワークと開発環境の整備・拡充、④試験プロセスの改善、⑤要求工学、⑥ソフトウェア工学教育の実践、⑦開発プロセスの見える化の7つの分野を重点施策として取り組んでいます。この部隊を、会社の役に立つようにすることが最重要課題ですし、社外に対してもSI業界をリードする役割を担うべく、ソフトウェア開発プロセス、生産技術、人材育成における業界貢献を行っていくことが重要です。

業界貢献としては、「発注者ビュー検討会」での取組みや、貴社のシステム開発の技術・ノウハウの公開があげられますね。

山田　2006年4月に「実戦的アプローチに基づく要求仕様の発注者ビュー検討会（発注者ビュー検討会）」を発足させ、お客様にわかりやすい外部設計書の記述方法及び合意方法をSIベンダー9社で検討を進めてきました。2007年9月に、第一弾の成果を公開しました。また、NTTデータのシステム開発のノウハウを結集した「TERASOLUNA」ソリューションのうち、JavaやNETに対応したアプリケーション開発基盤である「TERASOLUNAフレームワーク」をOSS化し、システム開発の手順書である「TERASOLUNA開発プロセス」の概要を公開しました。これにより、NTTデータが長年培ってきた開発ノウハウと高品質な機能が無償で利用できるようになるだけでなく、特定ベンダーに依存しない情報システムを柔軟に構築することが可能になります。

システム開発の方法論以外に、BIの方法論やソフトウェアの研究開発にも取り組んでいますね。

山田　BI（ビジネスインテリジェンス）分野のニーズは非常にあります。蓄積された膨大なデータの分析・活用のための方法論やソフトウェアの研究開発に「BI推進センタ」は取り組んでいます。世の中、“情報の爆発”などといわれていますが、大量に蓄積された情報を上手くビジネスに活かすという領域は、間違いなくこれから伸びる分野だと思います。

2008年度から、重点化R&Dテーマを本格展開

最期に、今後の抱負をお聞かせください。

山田　技術開発本部ですから、3年～5年先の世の中に向けて、弾を込めることも重要なミッションだと思いますが、現在はもう少し近いところをターゲットに取り組んでいます。先ほどの今中期の4つの重点R&D施策については、この10月に組織を一部改編したので本格的に取り組むのは2008年度からだと思います。

本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長　河西義人）